

# 大豆畑の帰化アサガオ類とヒロハフウリンホオズキの除草剤体系処理による防除



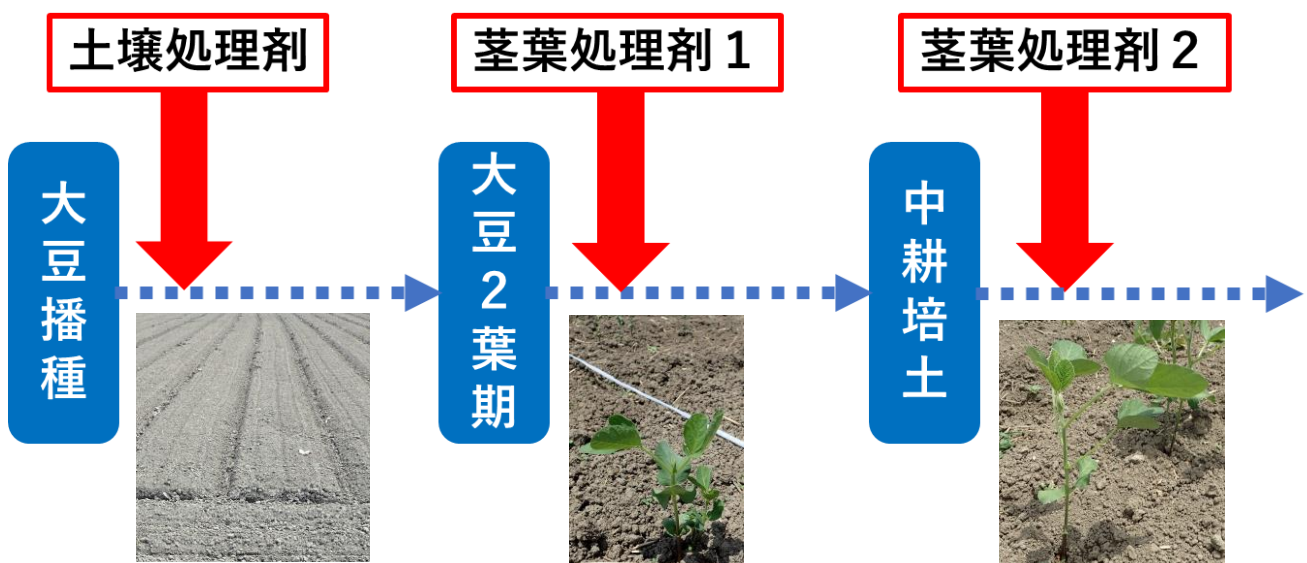
帰化アサガオ類  
(ホシアサガオ)



ヒロハフウリンホオズキ

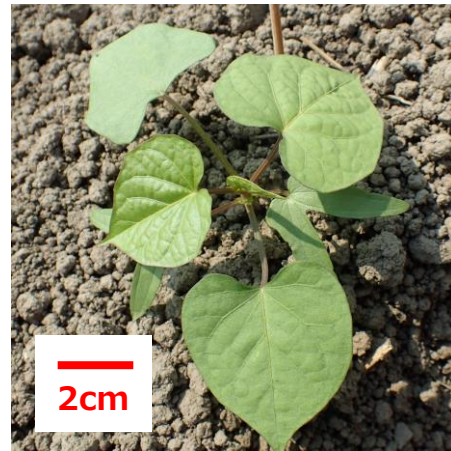
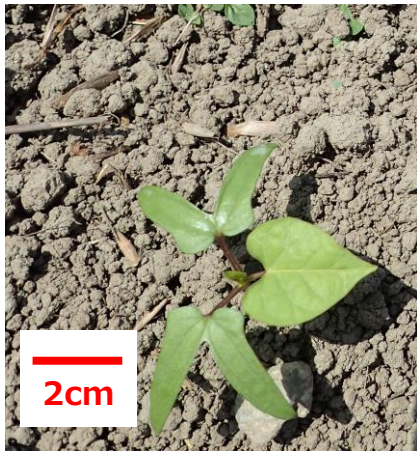
発生する雑草を早期に判別して、適切な除草剤を体系処理することで深刻な雑草害を回避します

## 除草剤体系処理の基本パターン

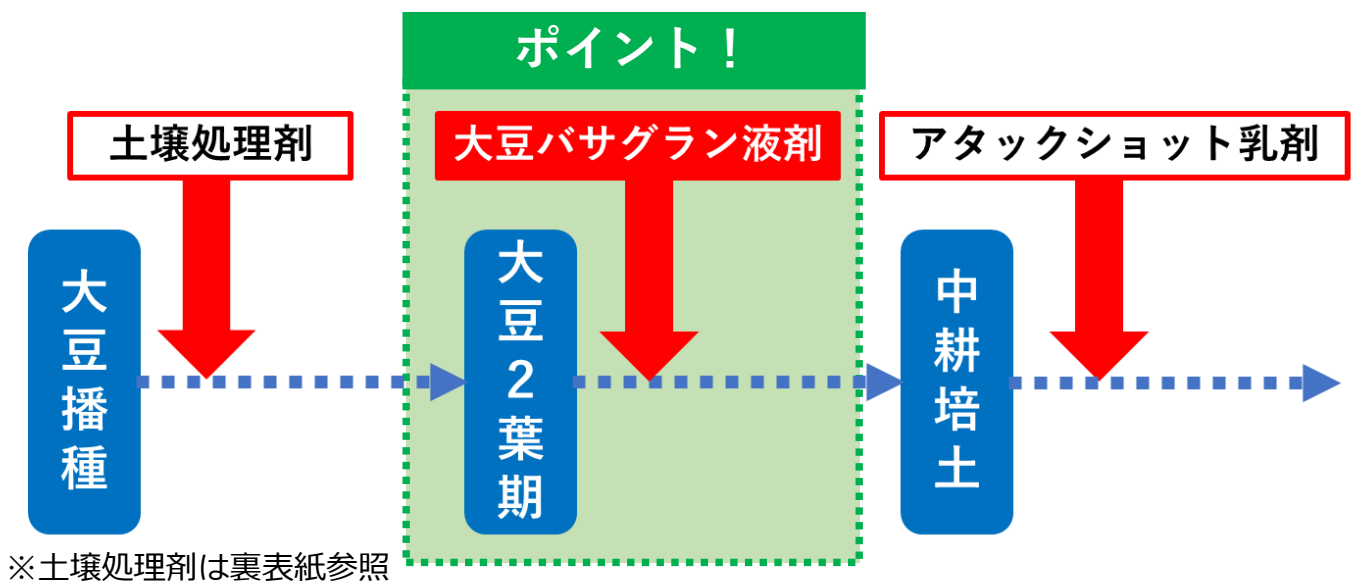


※大豆2葉期頃に発生している雑草を判別し、散布する茎葉処理剤を決めます

## 帰化アサガオ類が発生している圃場の除草体系



(写真はホシアサガオ、左：1葉期、右4葉期)



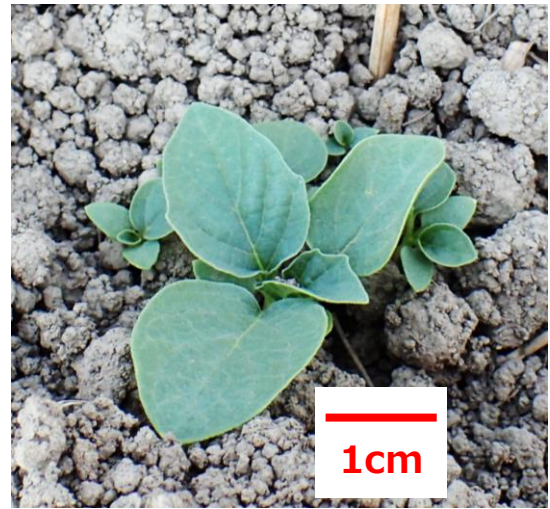
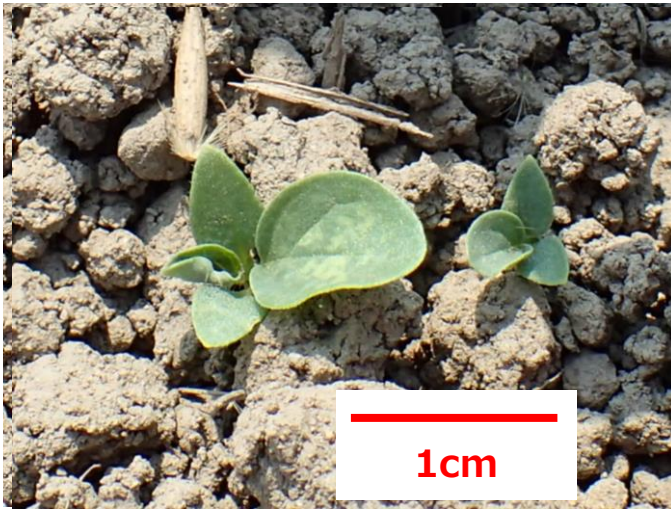
- 大豆の2葉期以降できるだけ速やかに「大豆バサグラン液剤」を散布
- 大豆バサグラン液剤は中耕培土前の散布が効果的
- 「ツル」が出てきた帰化アサガオ類には効果が落ちる
- 中耕培土後に発生する個体はアタックショット乳剤で防除する



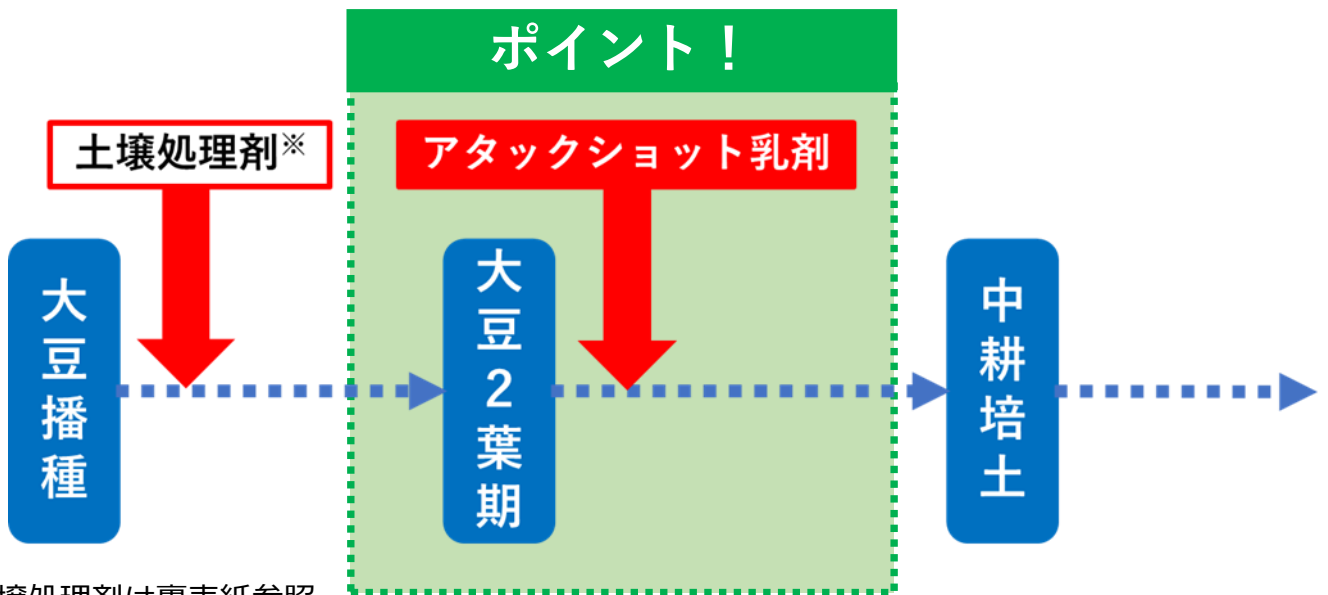
「ツル」が伸び始めたホシアサガオ



## ヒロハフウリンホオズキが発生している圃場の除草体系



大豆2葉期ごろのヒロハフウリンホオズキの様子  
(左：1～2葉期、右：3～4葉期)

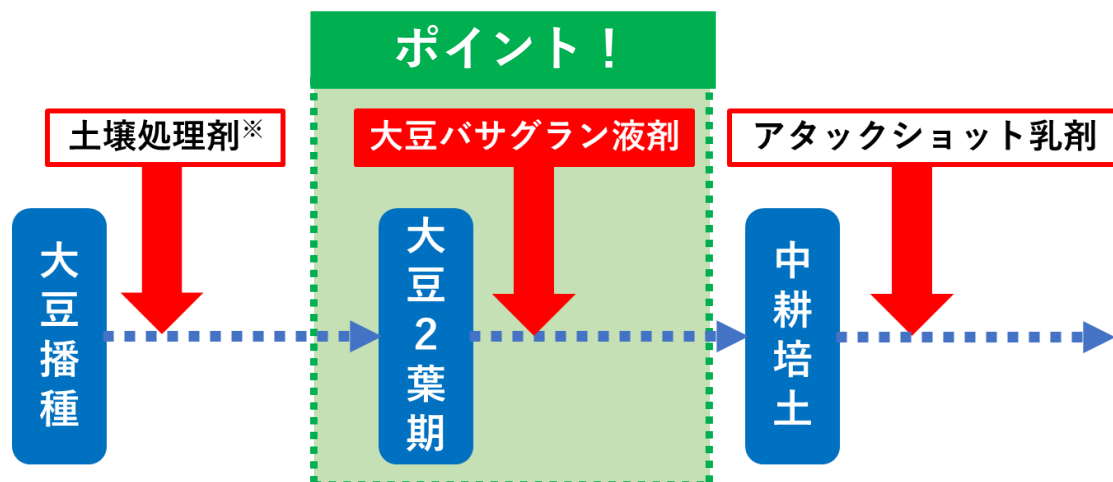


※土壤処理剤は裏表紙参照

- 大豆が2葉期以降、ヒロハフウリンホオズキの5葉期までに「アタックショット乳剤」を散布
- 大豆バサグラン液剤は効果がありません
- 土壤処理剤の効果が高く発生が少なければ、中耕培土（大豆3葉期）後に発生してから「アタックショット乳剤」を散布します

# 帰化アサガオ類とヒロハフウリンホオズキが混生している圃場の除草体系

「帰化アサガオ類が発生している圃場の除草体系」  
に準じた除草体系が必要



※土壌処理剤は下記参照

## ●土壌処理剤の一例

エコトップP乳剤、プロールプラス乳剤、ラクサー乳剤など

## ●大豆バサグラン液剤、アタックショット乳剤の使用基準

	大豆バサグラン液剤	アタックショット乳剤
使用時期	だいたいの2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期)	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期)
使用量	100～150ml/10a	30～50ml/10a
使用方法	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草茎葉散布又は全面散布

※2020年2月末日現在

●雑草の判別に困ったら、お近くの普及センター、JA、試験場等にご相談ください。

## ●留意事項

- ・本パンフレットは農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」で得られた成果の一部です。
- ・農研機構九州沖縄農業研究センターは、本パンフレットに掲載された情報をご利用になったことにより損害が生じていても一切の責任を負いません。
- ・本技術に関するお問い合わせは以下までお願いします。

## 問い合わせ先

農研機構 九州沖縄農業研究センター 地域戦略部 研究推進室

〒861-1192 熊本県合志市須屋2421 電話：096-242-7530 メール：q\_info@ml.affrc.go.jp